

幼稚園教育実習における幼小連携に関する研究

—自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに着目して—

広兼 睦 池田 明子 森田 水加穂 佐原 美穂
大上 輝明 石田 浩子 井上 弥 朝倉 淳

1. 研究の目的と背景

本研究は、初等教育教員養成コースに所属している学生による幼稚園教育実習生が、幼小連携という観点から実習を行うことによる効果を考察することを目的とする。特に、今年度は幼稚園・小学校共通に求められる“自ら学ぶ意欲を育む”教師の支援のあり方に着目し、指導教員の指導のあり方を追究する。

池田等(2013)、中山等(2014)の研究においては、教育実習指導における指導教員の成長に着目し、実習生のニーズを具体的に理解しながら、それに応じる教育実習指導のあり方について明らかにしてきた。その中では、特に実習生と指導教員との意識のズレがないかどうかを確認しながら実習指導を進めることで実習生の満足度が高まることが実証され、教育実習を通して実習生と指導教員が相乗的に高まる状況を確認することができた。

一方、本園の教育実習を履修する学生のほとんどは実際には小学校教諭をめざすという点をふまれば、幼小連携に関する学びの場が実習中にあることによって、実習生の将来的なニーズに応えることにつながると考えられる。中でも教育課程企画特別部会(2015)が明らかにしているように、これからの社会を生きていく子どもたちにとっては、主体性・多様性・協働性などを育むことが必要とされている。また、幼稚園教育要領(2008)に示されているように、幼児の主体的な活動を促すことは幼稚園教育の基本の第1にあげられているほど重要である。そこで今回は幼小ともに重要視されている主体

性、特に自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに着目して研究を進めることとした。

2. 研究の方法

実習期間 2015年5月25日～6月5日

対象者 教育実習生(大学4年生 23名)
幼稚園指導教員(男性1名、女性4名)

手続き

実習生に対しては、実習開始時・中間時・終了時の3回にわたって、質問紙調査を実施した。質問紙としては、「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿に関して気づいたこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする意欲を支えるための教師のかかわりに関して気づいたこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿やそれを支える教師のかかわりに関しての、小学校との共通点だと思うこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿やそれを支えるための教師のかかわりに関しての、小学校との差異点だと思うこと」の4項目について自由記述を行った。

指導教員に対しては、実習開始時・中間時の2回にわたって質問紙調査を行った。実習開始時には、「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿に関して、気づいてほしいこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする意欲を支えるための教師のかかわりに関して、気づいてほしいこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿やそれを支える教師のかかわりに関しての、小学校との共通点として気づいてほしいこと」「自ら学ぼう(遊ぼう)とする子どもの姿やそれを支えるための

Muthumi Hirokane, Akiko Ikeda, Mikaho Morita, Miho Sahara, Teruaki Ohue, Hiroko Ishida, Wataru Inoue, and Athushi Asakura: A Study of Cooperation of a Kindergarten and Elementary School for Through Practice Teaching Guidance In Kindergarten—Attention to the Relation of a Teacher Bringing up Will to Learn by Voluntarily—

教師のかかわりに関しての、小学校との差異点として気づいてほしいこと」の4項目について自由記述を行った。また、中間時には実習生の開始時と中間時の質問紙調査を比較し、指導教員の指導内容と実習生の所感との間に見られる共通点やズレに関する自由記述を行った。そのことで実習後半の指導のあり方を追究する手立てとした。

3. 結果と考察

実習生による実習開始時質問紙調査、実習生の開始時と中間時の質問紙調査をふまえた上での指導教員の中間時の質問紙調査、実習生の終了時の質問紙調査との関連を明らかにすることで、指導教員の指導のあり方を追究した結果と考察は以下のとおりである。

(1) 自ら学ぼうとする子どもの姿について

「自ら学ぼう（遊ぼう）とする子どもの姿に関して気づいたこと」という項目に関して、実習生と指導教員の相乗性を明らかにしながら、指導教員の指導のあり方を追究するために、実習生の質問紙調査開始時（表1）、指導教員の質問紙調査中間時（表2）、実習生の質問紙調査終了時（表3）を示した。

表1 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿に関する実習生の自由記述（開始時）

記述内容
<p><具体的な子どもの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ・無心になって遊ぶ。 ・自分で興味のあることを探す。 ・自分の思いをありのままに出す。 ・何度も試してみる。 ・自由な発想で環境を生かして遊ぶ。 ・自分から身近な自然やもの、人にかかわる。 ・一つの遊びから様々遊びを見つけて広げる。 ・自分から友だちに声をかける。 ・けんかをした時や困った時にどうしたらいいかを自分たちで考える。 ・友だち同士で思いを出し合いながら遊びを進める。 ・友だちからの声かけに肯定的にとらえる。
<p><自ら遊ぶ意欲や態度を支える土台・教師のかかわり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見・驚き・達成感が更に遊びを深めていく。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの体験を生かして遊ぶ。 ・自分でやってみたことを教師に伝えて認めてもらうことを喜ぶ。 ・友だちの影響を受けて、自分もやってみたいという意欲が増す。 |
|--|

表2 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿に関する指導教員の自由記述（中間時）

記述内容
<p><共通点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味やそこから何を感じているのかという視点で、子どもを観察している。 ・子どもは自ら考えて試したり繰り返し遊んだりする。 ・遊びは子どものやってみたいという主体的な思いから始まっている。 ・できた作品を教師や友だちに見せてほめられることで、更に作りたいという気持ちにつながっている。 ・環境構成だけでなく、友だちの影響を受けて始まる遊びもある。 ・人が作っているのを見て自分もやりたいたいと思える環境構成が大切である。 ・どのような環境構成の時に子どもが自分のしたいことを見つけているのかということを見ることが大切。
<p><ズレ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表れた姿を見ることが多いので、もっと子どもの思いをくみ取ってほしい。 ・教師や友だちに自分の作ったものや見つけたものを認められる喜びを感じた後、どのように子どもの姿が変わったのか、ぱっと見える姿だけでなく、遊びの発展やその後の子どもの姿の変化などまで追ってほしい。 ・子どもは教師や友だちの影響を受け、遊んでいることにもっと気づいてほしい。

表3 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿に関する実習生の自由記述（終了時）

記述内容
<p><子どもの姿より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもはささいな気づきに心が揺れ動く。 ・子どもは瞬間瞬間に全てをかけている。 ・教師が意図しない視点からも子どもは気づき動く。

- ・素材の特性に関して、自分たちでいろいろと試したりする中で学ぶことができた。
- ・自分の気づきや発見を全身で表現し、それを周囲の子に伝えて学ぶ。
- ・自分で様々な活動を生み出し、それを通して無意識のうちに考えたり、喜びを見つけ出したりして学ぶ。
- ・分からないことがあったら、自分の力で調べたり、発見したり、教師に尋ねたりする。
- ・自分で興味をもったことに対して試行錯誤したり、友だちと教え合ったりする。
- ・遊びの中で見つけたもの、気づいたことを誰かに知らせたい。
- ・友だちとうまくかかわれずに思わず手が出てしまう子どもも、何気ない発言や遊びに没頭する中に、その子にしかない光るものを持っている。
- ・友だちとかかわり合う中で、いい所を見つけたり、まねしたり、時には教え合って互いに成長している。

<自ら遊ぶ意欲や態度を支える土台・教師のかかわり>

- ・教師がよかれと思ってしたことが、かえってよくない影響を与えることもある。
- ・子どもに指示するより、できている所をほめることで、自らしようとする。
- ・できない子にスポットをあてるのではなく、できている子にスポットをあてることで、自ら聞こうとする態度が見られる。
- ・教師が問かけると、子どもは自分で考えられたり、自分の思いをもったりして自分が思う以上に、子どもの可能性は大きい。
- ・自分の興味・関心から遊びが発生する。それは遊びが発生しうる環境である時に初めて発生する。
- ・他者からの影響を受けて、関心が生まれ、遊びへつながる。
- ・自分で試行錯誤することで、次への探究につながる。
- ・子どもがつまずいた時、教師はほんの手助けをしたり、背中を押したりすると、自らじっくり考え自分で行動することができる。
- ・子どもの遊びは生活の一部であり、全てがつながっているのだということ。その場その場で単体であるわけではない。

- ・子ども同士、子どもと教師という関係の中で、信頼関係があることで、「やってみたい」という意欲が生まれる。
- ・自分でやりたいこととやるべきことに間で葛藤している姿から社会性の基礎が培われる。
- ・日常の生活経験が反映されている。

<考察>

実習生は、実習開始時には、具体的な子どもの姿として子ども自身の自立的な姿や、周囲のものや人に主体的にかかわる姿そのものについて述べているが、前半1週間の実習を経て、周囲のものや人に主体的にかかわる中で試行錯誤・様々な気づきなどについて述べるようになってきている。指導教員も、実習中間時には、実習生が子どもの表面的な姿だけでなく、何を感じているのかという視点で見ていることに指導の共通点を感じている。一方で、指導教員は更に子どもの思いをくみ取ったり、遊びの発展や子どもの変化までを見たりしてほしいと感じている。指導教員はこのような実習生との相関性をふまえて後半の実習指導を実施した。その結果、実習終了時には、実習生は「子どもは無意識のうちに考える」教師が意図しない視点からも子どもは気づく」など幼児期の発達の特徴をふまえた子どもの姿にも気づくようになってきている。また、友だちとのかかわりの中で、子どもは葛藤したり、友だちのよさに気づいたりするなど、子どもの心の揺れ動きや友だちとの関係性に気づくようになってきている。

また、実習生は、実習開始時には、自ら学ぶ意欲や態度を支える土台や教師のかかわりとして、子ども自身の発見や驚きなどの心の動きや、教師や友だちの影響を端的に述べているが、1週間の実習を経て、子どもが環境や友だちの影響を受けながら遊ぶことが次の体験にいきてくることについても述べるようになってきている。指導教員も、実習生は環境や友だちの影響に着目することの大切さに着目していることに指導の共通点を感じている。また更にこの点について深めてほしいとも感じている。指導教員はこのような実習生との相関性をふまえて後半の実習指導を実施した。その結果、実習終了時には、自ら学ぶ意欲や態度を支える土台や教師のかかわりに関する記述が増えている。つまり、子どものみをとらえるのではなく、子どもをとりま

く教師や友だちとの関係性や子どもに応じた環境があってこそその自発性ということに気づくようになってきている。

(2) 自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりについて

「自ら学ぼう（遊ぼう）とする意欲を支えるための教師のかかわりに関して気づいたこと」という項目に関して、実習生と指導教員の相乗性を明らかにしながら、指導教員の指導のあり方を追究するために、実習生の質問紙調査開始時(表4)、指導教員の質問紙調査中間時(表5)、実習生の質問紙調査終了時(表6)を示した。

表4 自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関する実習生の自由記述(開始時)

記述内容
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に環境構成をする。 ・全体を見ながら一人ひとりを見ている。 ・子どもの目線に合わせて話す。 ・子どもの行動を否定するのではなく、肯定的に受け止める。 ・一人ひとりの子どもの声を丁寧に聞く。 ・スキンシップをとる。 ・そばで最後まで見守る。 ・指示したり答えを教えたりするのではなく、子どもに尋ねたり、自分で考えるきっかけを作ったりする。 ・うまくできている子をほめることで、他の子どもも動けるようにする。 ・自己肯定感や意欲が高まるようにほめる ・注意した後のフォローになるようにほめる。 ・具体的にほめるので、教師がきちんと見ていることが子どもに伝わる。 ・遊びのきっかけを投げかける。 ・理由を考えて行動できるようにかかわる。 ・子どもが一人でうまくできない時は一緒にする。 ・子どもに興味をもたせたり、周囲の子どもを巻き込めたりするように、教師自身が遊びに加わり、楽しむ。 ・いけないことはいけないときちんと伝える。 ・子どもたちをひきつけるように工夫する。 ・子どもが安心感をもてるように、共感的にかかわる。 ・子どもが何度も挑戦して達成感を味わうこ

<p>とができるような場を設定したり、待ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身に意欲が増すように、子どもとやりとりする。 ・子どもの興味にそった内容の活動を行う。 ・子どもの力を引き出せるように見守ったり、声をかけたり、手本を示したりする。
--

表5 自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関する指導教員の自由記述(中間時)

記述内容
<p><共通点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守る・ほめる・思考を促すかかわり、友だちとのかかわりや興味をもてるような手立てや環境でかかわる ・子どもの気づきや発見を共に驚き、その気づきを認める。 ・誘導することはあっても指示は少ない。 ・教師がすぐに答えを提示するのではなく、子どもに尋ねて、子どもなりの思いを認める。 ・子どもが自分で考えられるようにするための声かけをする。 ・子どもの興味関心から環境構成を再構成する。
<p><ズレ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いをくみ取ることへの記述が少ない。 ・状況に応じて教師が大きくかかわるのか、見守るのか、声をかけるのかなどの支援方法をかえる。 ・習ったことを振り返る、生活指導を重点的になど、小学校視点での回答が多いように感じる。

表6 自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関する実習生の自由記述(終了時)

記述内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがしていることに共感する。 ・子ども一人ひとりの思いをくみとり、子どもの心に寄り添い、受け止める。 ・子どもの目線に立って、子どもの本音を聞こうとする。 ・答えを言うのではなく、問いかけ続けることで絶えず考え続けようとする姿勢が育つ。 ・子どもの気持ちを問いかけながら、子ども

の心のうちに秘めている思いを感じとろうとする。

- ・自分で考えることができるようにするための言葉を選んだり、気づきを与える言葉をかけたりする。
- ・子どもが自分の思いや考えを出せるようにするために、子ども同士のかかわりを促したり、ほめたり、見守ったりする。
- ・子どもにとって一番よい学びになるように、子どもに寄り添い、子どもの立場で考えたり、一歩下がって様子を見たりする。
- ・自分や他者の気持ちに落ち着いて向き合えるよう、場所をかえたり目線で合図したり、背中に手を添えたり、言葉だけでなく表情やふれあいなど全身を使って心からかわる。
- ・自ら学ぼうとする姿を引き出すために、教師の意図的な段階をふまえてかわる。
- ・待つことや見守ることを大切にする。
- ・子どもの自ら考え工夫する意欲がもてるように「やってみる」時間をつくる。
- ・認める言葉がけをする。
- ・教師がねらいをしっかりとつことで、声のかけ方も動き方も子どもの反応一つひとつがかわる。
- ・教師のねらいと子どものやりたいという意欲がつながることが大切。
- ・子ども自身がやりたいと思えるようなこと、教師自身もやりたいと思っていることが大切。
- ・子ども一人ひとりの思いに沿えるように環境を整える。
- ・子どもの興味・関心に合わせて遊びが発展するような環境を構成する。
- ・気づきや興味が発展していくような声かけをする。
- ・友だち同士で学び合えるきっかけをつくる。
- ・子どもによって声のかけ方がかわる。

<考察>

実習生は、実習開始時には、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりとして、子どもの思いを肯定的に受け止めたり、認めたり、見守ったりすることなどについて述べているが、前半1週間の実習を経て、子どもの思いに添うためのものとしてのかかわりや、子どもの興味・関心に基づいた環境構成について述べるようになってき

ている。指導教員も、実習中間時には、子どもの思いに基づいて認めたり、尋ねたり、誘導したりするかかわりに共通点を感じている。また、一方で更に子どもの思いをくみ取ったうえでの教師のかかわりが必要であることや、状況に応じて教師のかかわりは工夫してほしいということを感じている。指導教員はこのような実習生との相関性をふまえて後半の実習指導を実施した。その結果、実習終了時には、実習生は、子どもの心のうちの思いを感じとることの大切さに気づいたり、状況つまり教師のねらいや子ども一人ひとりに応じて教師のかかわりは多様にあるということに気づいたりするようになってきている。

(3) 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との共通点

「自ら学ぼう（遊ぼう）とする子どもの姿やそれを支える教師のかかわりに関しての、小学校の共通点だと思うこと」という項目に関して、実習生と指導教員の相乗性を明らかにしながら、指導教員の指導のあり方を追究するために、実習生の質問紙調査開始時（表7）、指導教員の質問紙調査中間時（表8）、実習生の質問紙調査終了時（表9）を示した。

表7 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との共通点（開始時：実習生の自由記述）

記述内容
<子どもに関して> <ul style="list-style-type: none">・子どもは新たなことにも挑戦しようとしている。・子どもは教師に認めてほしいと思って行動する。・子どもは友だち同士で高め合っている。・子どもは自分で考えて行動しようとしている。・子どもにとって発見や気づきは次の活動のエネルギーになる。
<教師のかかわりに関して> <ul style="list-style-type: none">・新しい学びにつながるように、教師がきっかけをつくる。・子どもが自ら考えて行動できるように理由を尋ねる。・子どもの声を丁寧に拾い、応答する。

- ・意欲が高まるようにほめる。
- ・子どもと共に発見を楽しむ。
- ・子どもの姿をよく観察している。
- ・子どもの目線に立って、子どもと同じ立場でかかわる。
- ・子どもが主体的に行動できるように、子ども自身が考えることができるような声かけや、時間・場の設定をする。

表8 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との共通点（中間時：指導教員の自由記述）

記述内容
<p><共通点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめる、思いにそった返事をする、意欲のわく問いかけ、変化に気づくなど子どもと教師とのやりとりを大切にする。 ・子ども同士のかかわりを大切にする。 ・子どもの学びの意欲をいかに引き出していくための教師のかかわりが大切 ・子ども一人ひとりをしっかり見取っていく。 ・自分で考えられるようにする。
<p><ズレ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のかかわりとして、子どもと一緒に考えることが幼小で共通しているという記述があるが、小学校では教える、学びのスタイルが主で、幼稚園では一緒に考えるスタイルが主ではないだろうか。 ・幼小とも1日全体で学ぶという記述があるが、小学校では休憩時間を学びとはとらえていないと思うので、幼稚園と同じとは思えない。 ・自分自身は幼稚園の方が子どもの姿からねらいに向けての活動や内容を考えていくが、それは小学校では教科に対する時数が決まっているため難しいと考えていた。一方、実習生のほとんどが、子どもの興味関心を引き出して学びの時間を構成するところが同じだと考えていた。

表9 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との共通点（終了時：実習生の自由記述）

記述内容
<p><子どもに関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心がわけば、子どもは一生懸命や

- る。
- ・子どもはほめてもらうことで、他の活動への意欲が増す。
- ・子どもは子ども同士で学び合える。
- ・子どもは学ぶ者本人だけでなく、友人・教師・ものなど他とかかわりながら学ぶ。
- ・遊び・けんかなど体験の一つひとつが、子どもの人間性や社会性・道徳性に強く結びついている。
- ・子どもが自分自身の心に向かい合い、切り換えていく場面は幼小ともある。
- ・自分の身の回りにあるものを用いて遊びや学びに発展させる。

<p><教師のかかわりに関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの目線に立って思いを知ろうとする。 ・子ども一人ひとりをきちんと見て理解しようとする。 ・子どもの発見や変化に声かけすることが、子どもの学ぶ意欲を支える。 ・子どもが過ごしやすく、学びたいと思えるような環境を整える。 ・真摯な本当の内の心でかかわることが大切。 ・教師が心がけるべきことや、子どもの内面の根底にあるものは違わない。 ・個を見ながら全体を見る。 ・教師と子どもの関係が大きく、教師の言動が子どもに非常に大きい影響を与える。 ・肯定的な声かけ、認める声かけをどちらも大切にしなければならぬ。 ・ねらいや子どもにこうなってほしいという思いを、子どもの思いや様子に基づいて悩み、試行錯誤して教師は学び続ける。 ・教師がうまくサポートしていけば、子どもは大きく成長する可能性を秘めている。
--

<考察>

実習生は、子どもについて実習開始時には「新たなことへの挑戦」「自分で考えて行動する」などポジティブな印象に関して述べているが、1週間の実習を経て、トラブルや葛藤・悩みを通して学んでいることを述べるようになってきている。また教師のかかわりに関して実習開始時には、子どもに対する教師の直接的なかかわりに関して述べているが、1週間の実習を経て、子ども同士の関係性を支えたり、指導を反省して生かしたりするというように教師の間接的なかかわりに関しても述べるようになってきてい

る。指導教員は実習中間時には、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関しては実習生との共通点を感じている。一方、学習スタイルに関する内容について指導教員は幼小に違いがあると感じているにもかかわらず、実習生は共通と感じていることにズレを感じている。つまり、(1) (2) の項目に関する実習生と指導教員のズレというのは、実習指導に関する実習生と指導教員のズレを示しているが、ここでは、幼小の学習スタイルのとらえに関する実習生と指導教員のズレを示している。その結果、実習終了時には、実習生は子どもに関しては、子どもは様々なかかわりの中で育っていることや、「自分自身の心に向き合うことができる」など心の内面に迫ることについて述べるようになってきている。また実習生は教師のかかわりに関しては、教師の心がけるべきことなど「教師」としての姿勢や影響力について述べるようになってきている。つまり、子どもの姿に関する幼小の共通点に関しては、実習生と指導教員との相関が見られるが、教師のかかわりに関しては、実習生と指導教員との相関性があまり見られない。それは、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関しての幼小の共通点のとらえ自体に実習生と指導教員にズレが生じていることが原因だと考えられる。

(4) 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との差異点

「自ら学ぼう（遊ぼう）とする子どもの姿やそれを支える教師のかかわりに関しての、小学校の差異点だと思うこと」という項目に関して、実習生と指導教員の相乗性を明らかにしながら、指導教員の指導のあり方を追究するために、実習生の質問紙調査開始時（表 10）、指導教員の質問紙調査中間時（表 11）、実習生の質問紙調査終了時（表 12）を示した。

表 10 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との差異点（開始時：実習生の自由記述）

記述内容
<子どもに関して> ・幼児の発想は豊かで、独自性が高い。 ・幼児は相手の気もちに気づきにくい。 ・幼児は個人差が大きい。
<教師のかかわりに関して>

- ・幼稚園では学ぶことが大きな枠組でとらえられているので、子どもの意欲を生かした学習が可能だが、小学校ではカリキュラムがぎっしりして、こちらが教えなければならないことを一方的に教える。
- ・教科ごとの授業ではないので、生活の様々な場面で多様な素材があったり、歌を歌ったりする。
- ・友だち同士のつながりの機会をつくる。
- ・小学校は教育に入ってくるため、評価が始まる。
- ・全クラスが一斉に遊ぶため、クラスの枠を越えて教師が子どもにかかわる。
- ・ボディタッチが多い。
- ・子どもとの距離が近い。
- ・教師の目線が低い。
- ・教師がかかわる度合いが高い。
- ・生徒指導にかかわる日程が多い。
- ・幼稚園は一人ひとりに時間をかけてかかわる。
- ・「遊び」を通して学ぶ。
- ・叱り方が違う。幼稚園は悟らせる。
- ・ほめたり認めたりする機会を多く作る。
- ・子ども自身ができるまで待つ。
- ・幼稚園はルール of 基準が曖昧。
- ・幼稚園はルールや決まり事が多い。

表 11 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との差異点（中間時：指導教員の自由記述）

記述内容
<共通点> ・幼稚園は教師の介入の度合いが多い。 ・試行錯誤を大切にする。 ・学びの基礎となる力を育てている。 ・小学校のように時間的区切りがないため、その日の子どもの姿から1日の流れを柔軟にかえていける。 ・環境が大きな影響を与える。 ・園児は「遊び」や「生活全般」を通して様々なことを学んでいる。
<ズレ> ・問いや活動を統一しないというとらえがあるが、そこまではっきりとは言えないのではない。 ・手厚いかかわりととらえているが、こまや

かなかかわりではないだろうか。

- ・「できた」と報告することが大きくなるといらないとあるが、小中でも大切なことではないか。
- ・自分自身は幼稚園の方が子どもの姿からねらいに向けての活動や内容を考えていくが、それは小学校では教科に対する時数が決まっているため難しいと考えていた。一方で実習生のほとんどが、子どもの興味関心を引き出して学びの時間を構成することが共通点ととらえていた。
- ・発する言葉だけが、その子自身の思いではないこともある。

表 12 自ら学ぶ意欲を育む子どもの姿や教師のかかわりに関する小学校との差異点（終了時：実習生の自由記述）

記述内容
<p><子どもの姿に関して></p> <ul style="list-style-type: none">・小学校高学年になると、自ら学ぼうとしても同じメンバー同士になってしまいがちだが、幼稚園ではいろいろな子と遊んでいる。・小学校では子ども自身が何を学ぶかを意識できるが、幼稚園では遊びの中で無自覚なうちに学んでいる。
<p><教師のかかわりに関して></p> <ul style="list-style-type: none">・幼稚園は子どもが主体で、小学校はカリキュラム中心である。・小学校は時間が区切られているが、幼稚園は生活の流れ、子どもの心の動きの中で活動が広がっていく。・幼児は言葉だけでは不十分なので、行動やしぐさ、その他の面から見取る必要がある。・幼稚園では教師の支援の頻度が大きい。・小学校では子どもにどう興味関心をもたせるかというかわりが大事になってくるが、幼稚園では子どもの興味・関心に即して、教師が活動の展開や内容を構成し、学ぶ内容を選択することができる。・幼稚園には気づきや興味が発展していくような環境が多い。・幼稚園では特に個を大切に意識しているが、小学校ではそれが「集団」に少し傾けているのではないか。・小学校には守らなければならないルールが多い。

<考察>

子どもについては実習開始時や中間時とも記述が少なく、差異点としては教師のかかわりに関する記述が多い。教師のかかわりについて、実習生は実習開始時には、カリキュラム構成、子どもとの距離や目線、ほめ方・叱り方などの具体的な教師のかかわりなどについて述べているが、1週間の実習を経て、「生活」や「体験」に関することについても述べるようになってきている。指導教員も実習中間時には、特に「生活」や「体験」の中で学んでいることに指導の共通点を感じている。一方、指導教員は「問いや活動を統一しない」「手厚いかかわり」に関してのズレを感じている。と同時に（3）と同様に学習スタイルに関する内容に特に子どもの興味・関心の生かし方について指導教員は差異点として感じていたことが、実習生では共通点としてとらえていることにズレを感じている。指導教員はこのような実習生との相関性をふまえて後半の実習指導を実施した。その結果、実習終了時には実習生は、子どもについては幼児期から児童期への発達の特徴に気づくようになってきている。また教師のかかわりに関しては、幼稚園は生活の流れを重視していることや、子どもの興味・関心の生かし方に関して、生かす場面やタイミングの違いについて述べるようになってきている。

4. 総合考察

本研究では、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに着目しながら、幼小連携という観点から実習を行うことによる効果を考察することを目的として研究を進めてきた。特に実習生の質問紙調査の内容をとらえ、指導教員としての指導のあり方を探り相乗的に高まるようなプロセスを重視してきた。その結果、次のようなことが明らかになった。

まずは幼稚園における、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりに関しては、子どもの思いをくみ取ることや状況に応じることをふまえた上での教師のかかわりに着目できるようにかかわってきた。そのことで、実習生は子どもを取り巻く教師や友だちとの関係の中で子どもを見取りかかわることの大切さや、子どもに応じた環境があってこそその自発性の育ちに気づくようになってきた。

上記のことをふまえながら、幼小の共通点について明らかになったことは次のとおりである。自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりの共通点は、子どもに対する肯定的な声かけ、子どもの思いを丁寧に見取ろうとする真摯な姿勢、教師の言動の子どもに対する影響力の大きさなどがあげられた。一方、子どもの興味・関心を引き出して学びを展開することや子どもと一緒に考えることは、実習生は幼小の共通点としてとらえていたが、指導教員は幼小の差異点としてとらえており、幼小の共通点の捉え方自体にズレがあることが分かった。また、自ら学ぶ意欲を育む教師のかかわりの差異点としては、子どもの興味・関心の生かし方に関しては、生かす場面やタイミングの違いについてあげられていた。つまり、自ら学ぶ意欲を育むために、子どもの興味・関心を引き出す教師のかかわりは重要だが、その方法に関しては幼小で共通だったり、差異が見られたりと様々に実習生はとらえているということ、また指導教員自身も子どもの興味・関心を引き出す方法や学習スタイルについては、幼小の共通点や差異点についての理解を更に深めていく必要があるということが分かった。

実習生は大学3年生時ですでに小学校教育実習を経てきており、ある程度の小学校の実態を把握していること、また本園指導教員も小学校参観・参加や小学校教員と研究協議を経てきており、ある程度の小学校の実態を把握しているということを前提として今回の研究を進めてきた。しかし、今後幼小連携に関する研究を更に深めるとともに、今回のように幼小で共通点とも差異点ともとらえられる子どもの興味を引き出す学習スタイルや指導方法に関しては、こまやかに協議を進めることで見えてくるものがあるのではないかということが、今後の展望として期待される。

引用（参考文献）

- 1) 池田明子・掛志穂・君岡智央・中山芙充子・広兼睦・森脇有紀・升岡智子・井上弥・朝倉淳・児玉真樹子（2013）「教育実習指導による指導教員の成長に関する研究—幼稚園教育実習における指導教員の成長に関する研究—」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第42号，pp. 217-222
- 2) 中山芙充子・森脇有紀・掛志穂・君岡智央・

広兼睦・池田明子・大上輝明・井上弥・朝倉淳・児玉真樹子（2014）「教育実習指導による指導教員の成長に関する研究(2)—幼稚園教育実習における実習生と指導教員の相乗的向上のメカニズム—」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第43号，pp. 223-230

- 3) 教育課程企画特別部会論点整理（2015）教育課程企画特別部会
- 4) 幼稚園教育要領（2008）文部科学省